

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成26年度 病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

## 病害虫発生予察 注意報第1号

- 1 農作物名** カンキツ, ナシ, カキ
- 2 病害虫名** 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ, ツヤアオカメムシ)
- 3 予報内容**
  - (1) 発生地域 県本土・熊毛地域
  - (2) 発生量 多
- 4 注意報発令の根拠**
  - (1) 予察灯への誘殺数は発生が多かった平成24年と同様に8月から増加している。薩摩川内市東郷町, 南さつま市加世田及び出水市では, 平成24年と同等に増加しているが, いちき串木野市市来町や垂水市では, 平成24年の2倍以上となっている。特に出水市の誘殺数が多い(9月第1半旬に5,013頭)(図1)。
  - (2) ヒノキへの寄生状況は同様に多く, 9月上旬の成虫は59.5(平年14.9)頭/地点, 幼虫も5.1(平年4.1)頭/地点と平年に比べて生息密度が高い(図2)。
  - (3) ヒノキ球果の口針鞘数(カメムシの吸汁痕数)は9月上旬が8.3(平年14.9)本/果と緩慢に推移していたが, 今後は急激に増加し口針鞘数が25本/果(ヒノキからの離脱の目安)を越える地点が出てくることが予想される(図3)。
  - (4) 出水市米ノ津では, 極早生温州の園で飛来がみられる地点がある。またカキへの飛来がある(聞き取り)。
- 5 防除上注意すべき事項**
  - (1) カメムシ類の飛来は地域間差, ほ場間差があるので, 園内外をよく見回り, 飛来を認めたら直ちに防除する。収穫期を迎えている極早生温州やナシ園では特に注意する。
  - (2) 山林(ヒノキ, スギ)に近い果樹園ほど飛来数が多くなる傾向があり, 特に, 防風樹としてヒノキを植栽している園地では注意する。
  - (3) 飛来を認めた場合, 一回目の防除は残効の長いネオニコチノイド系薬剤または合成ピレスロイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は, ハダニ類の発生を助長するので散布後の発生に注意する。また, 散布後の園内の飛来状況を見極め, 二回目以降の防除を実施する。
  - (4) 薬剤のかかりの悪い場所へ集中的に飛来する可能性が高いため, 薬液が樹全体にかかるように丁寧に散布する。
  - (5) 防除に当たっては, 農薬の使用基準を厳守し, 薬剤の飛散に十分注意する。

(参考資料)

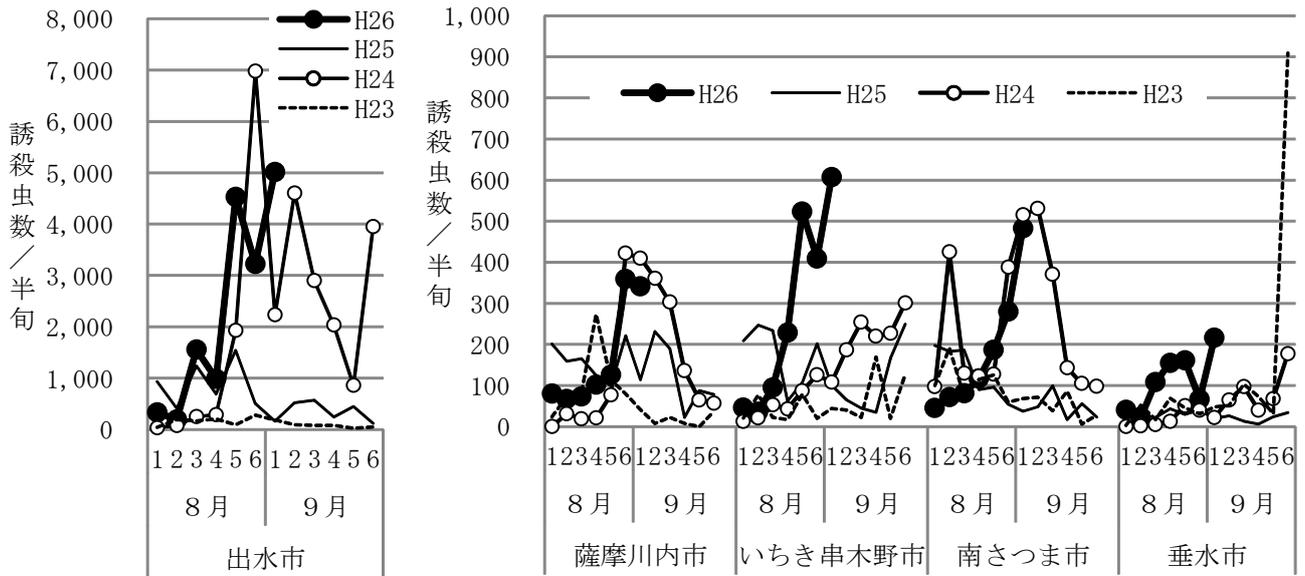


図1 予察灯におけるカメムシ類（2種計：チャバ初カメシ，ツアカメシ）の誘殺数（平成23～26年）  
 ※平成24年は，過去3カ年で多かった年。

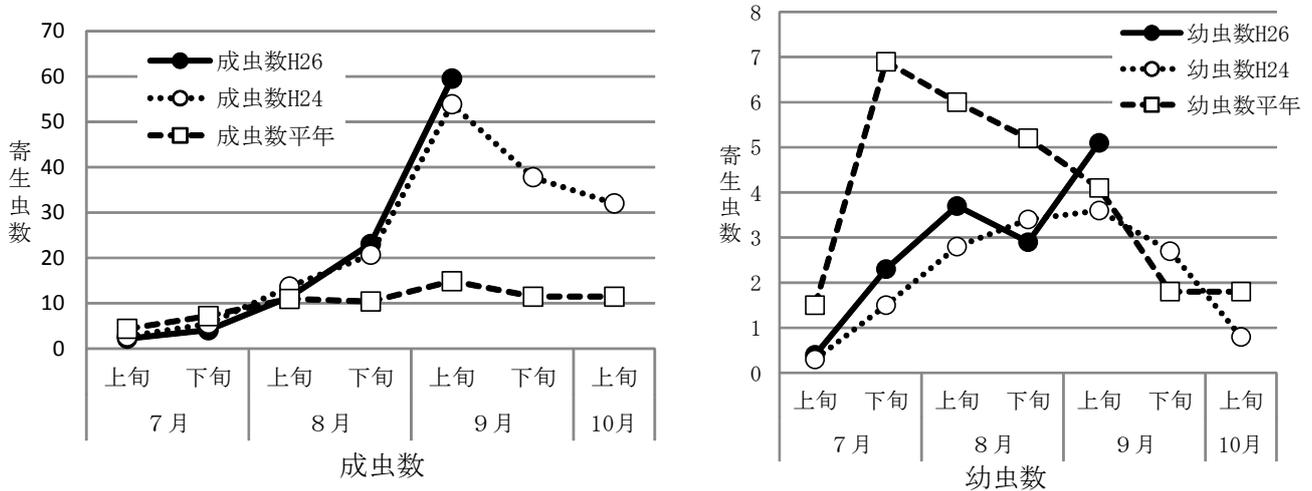


図2 ヒノキでのカメムシ類（2種計）の寄生状況（左：成虫数，右：幼虫数，調査地点平均）  
 ※平成24年は，寄生虫数の推移が類似した年。

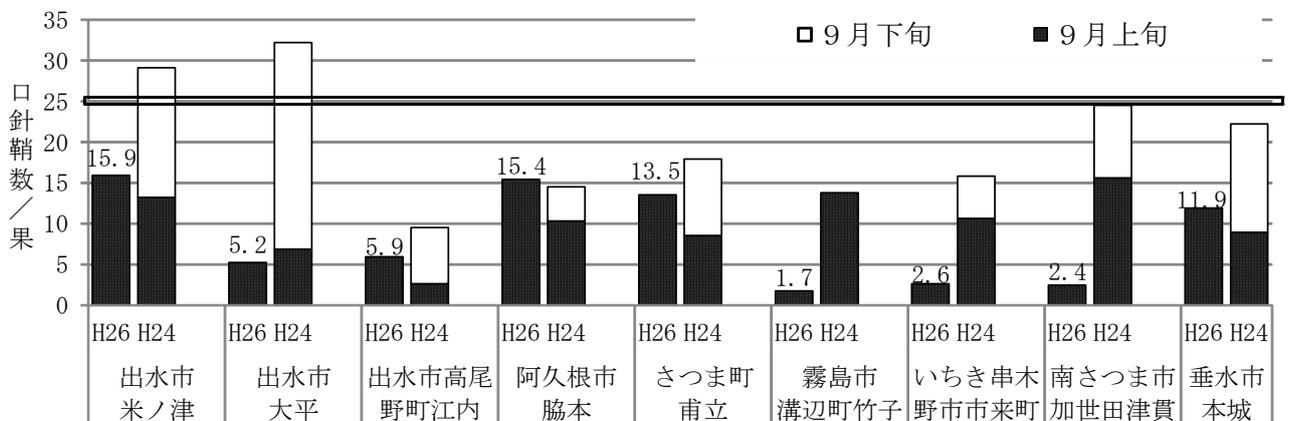


図3 ヒノキ球果の口針鞘数（平成26年9月上旬と平成24年9月上旬～下旬の推移）  
 ※口針鞘数が25本/果以上が，ヒノキからの離脱の目安。